

女性の出番だ！今年の重点管理ポイント！ナシの新梢管理！

佐賀県果樹試験場 落葉果樹研究担当 加藤恵

開花後 1 ヶ月程度経過しました。実どまりが確定して、果実の品質向上と来年産に向けて花芽づくりがナシ栽培の課題となりますが、この二つは今から新梢管理を確実に実施することで改善します。そこで、女性の出番です！もちろん、防除や土づくり、灌水・排水対策なども重要な要素になりますが、機械を使った作業は男性にお任せしましょう。これから実施する新梢管理は、ハサミと誘引紐があればすぐに取り掛かることができます。特に開花期の天候不順により着果が少ない園地では、新梢が徒長しやすいためコントロールが必要です。今年産の品質向上、来年産の収量アップは女性の手には掛かっていますよ！

❖側枝の管理❖

理想の側枝

果実生産中の理想的な側枝の形を図1に示しています。

A：上に向かって真っ直ぐ立ち、側枝内で最も強く大きい枝。側枝の先端部に葉数が多いことで根からの養水分の引き込みが多くなり、側枝全体へ行き渡らせることができる。側枝途中からの徒長枝抑制にもなる。

B：同じく先端部をより強化するため、上向き。

C・E・H：果実が着いているが、果実の周りは果そう葉のみが着生し、受光体勢が良い状態。果実の着生位置に徒長枝がなく、葉との養水分の競合が起こりにくい。

D・G：側枝の途中から発生しているが、徒長枝ではなく 30～40 cm程度の弱い枝。翌年は中果枝として利用できる可能性がある。

F・I：側枝の途中から発生しているが、果そう葉のみ着生。翌年は短果枝として利用できる可能性がある。

このような側枝の状態であれば果実肥大や効果的な防除も期待できます。

理想の側枝の作り方

理想的な側枝をつくるためには、図2のように **A** を誘引紐で立ち上げます。新梢が伸びた **C・E・F・H・I** は群集芽の上部分で摘芯します。群集芽がない場合は、4 葉を残して摘芯してください。ただしこの摘芯作業は満開後 30～40 日頃が適期で、遅くなり過ぎると花芽が着かず、むやみに葉数を減少させることとなります。新梢が既に 50 cm以上に伸びているような場合は、誘引をして棚面に下げてください。側枝周辺に予備枝や予備枝候補となりそうな新梢が無い場合には、側枝基部の新梢を予備枝候補枝として残す可能性があります。周りの状況を見て判断してください。

❖ 予備枝の管理 ❖

先端を大事に

冬季の剪定時、主枝や亜主枝の側面に予備枝と呼ばれる枝が置かれています。予備枝の目的は、先端部を立ち上げて予備枝の先に十分な長さの新梢を伸ばし、側枝の第1段階となる長果枝を確保することです。予備枝先端から出る新梢を優先的に育成するため、同じ位置から発生した新梢は剪除します（図3）。先端部と競合しそうな新梢は4葉残して摘芯してください。

誘引は女の武器

満開から70日頃には予備枝部分を誘引して倒し、先端部の新梢が45°程度に傾くようにしてください（図4）。こうすることで先端部の新梢は伸長が止まり、花芽の着生率がアップします。また、基部の肥大が抑えられ、剪定時も楽に棚付けすることができます。新梢を倒し過ぎると、後々副梢が出てきて花芽の形成が阻害されますので注意してください。

翌年の収量アップと女性でも楽に冬季の剪定をこなすためのコツは誘引です！遅くなると効果が小さくなりますので、梅雨の合間を縫って実施してください。「幸水」「あきづき」では必須の作業です。

❖ 発育枝の管理 ❖

若返りのための第1歩

ナシ園の樹形を思い出してください。側枝は図1のような単純な形が並んで、1.4m前後の長さに収まっていますか？側枝の途中にあった中果枝が側枝に変化していたり、基部に果実が無く、先へ先へと側枝が延長されたりしていませんか？1本の樹の中で古くて太い部分の割合が多いと、樹勢が弱り、収量が減る原因となります。予備枝を作って側枝を上手に管理し、更新していくサイクルが樹勢の強化、樹形の単純化には重要です。その第1歩として、満開後70日頃、主枝・亜主枝から出た新梢（発育枝）を誘引しておくことが大事です。予備枝と同じく45°程度に誘引しておけば、肥大が抑えられ花芽の着生も期待できます（図5）。主枝・亜主枝側面から出た枝は予備枝候補として後々利用できますし、花芽の着生が良く、周りに側枝が無い場合には予備枝過程を経ずに長果枝として利用できます（ただし予備枝を経た長果枝の方が、果形が良く発芽不良の発生も少なくなります）。

とりあえず誘引

側枝上の発育枝で摘芯のタイミングを逃した時や、再伸長した場合には棚面に誘引して構いません（図6）。主枝・亜主枝背面から出た発育枝でも、放置すれば巨大な徒長枝になりますが、誘引によって浪費が少なく、秋の貯蔵養分の蓄積に一役買ってくれる枝となります。発育枝の誘引は選択枝を増やし、冬季の鋸の出番を減らしますので、剪定を楽にするためにも実施しましょう。

❖主枝先端部の管理❖

隅々にたくさんの葉を

主枝先端部は側枝先端部と同様、養水分を樹全体に行き渡らせるため最も葉数が必要な部分です。伸長停止させず展葉を促すため、一目見て「ココが主枝の先端部だ！」と分かる程度に吊り上げ、先端の新梢をできるだけ垂直方向に向けましょう（図7）。若木では支柱を使って垂直方向に誘引してください。主枝背面から出た新梢は、主幹近くの基部の場合芽かぎや摘芯をしますが、先端部付近はできるだけ放任します。剪定時の剪除が予想される枝は満開後70日以降に誘引をしてください。

着果はさせない

着果は先端部の強化とは真逆の効果になります。主枝先端部の弱まりは樹形の乱れや樹勢低下の原因になりますので、確実に摘果し新梢を多く配置してください。

❖若木の管理❖

梅雨入り前のかん水

改植後早く収量を確保するには、生育を旺盛にして樹冠を拡大する必要があります。前述の主枝先端部の管理を必ず実施してください。また、新梢が伸びる時期は根も同時に伸びています。若木の根は土層の浅い部分にあり、降雨のない日が続くと成木よりも根が乾燥しやすくなります。梅雨に入るまでの5月は晴天が続く日も多くあります。くれぐれも土壤の乾燥に注意してかん水を行ってください。

成木以上に目を光らせる

防除についても成木以上に注意が必要です。早い時期にハダニ等による被害に遭うと、新梢伸長が阻害されたり、葉のもとに芽ができず枯れ込んで側枝が確保できなくなることもあります。新梢管理のため園内を周る時は病害虫の発生がないかよく観察してください。

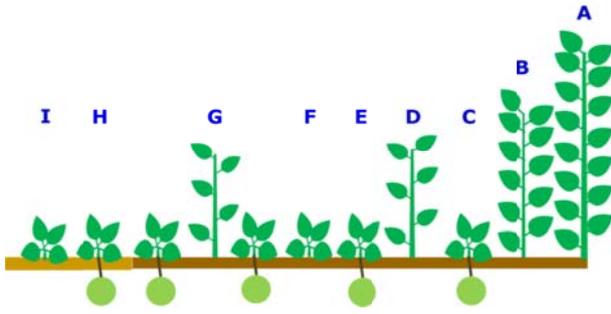


図1 理想的な側枝の形

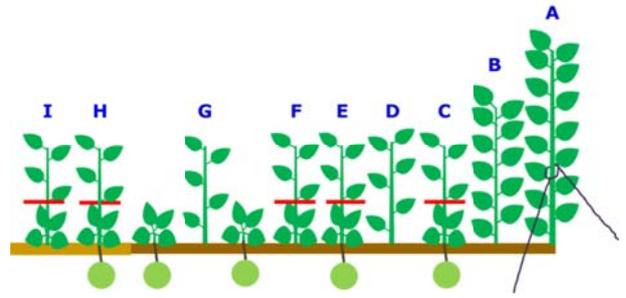


図2 側枝の管理方法

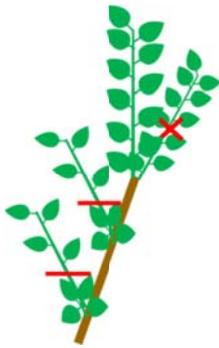


図3 予備枝の管理方法

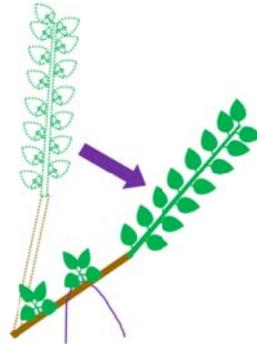


図4 予備枝の誘引方法

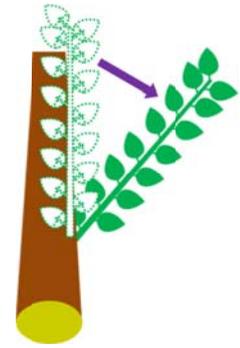


図5 予備枝候補枝の誘引方法

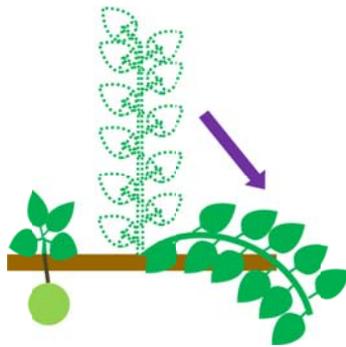


図6 側枝上枝の誘引方法

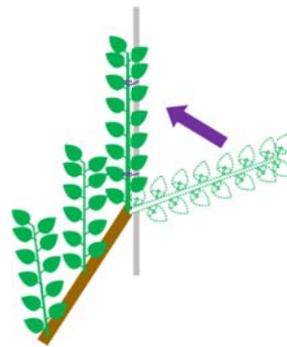


図7 主枝先端の誘引方法